

# INTRODUCE PARTS FACTORY

イントロデュース・パーツ・ファクトリー

# GIBSON

ギブソン



LAが591号リバーサイド・ハイウェイをひたすら東に行き、オレンジ・カウンティも通り過ぎたコロナというところに居を構えるギブソン。新社屋はクリーンで規模も大きなものだ。



Gibson Performance, Inc.  
1270 Webb Circle, Corona, CA 92879 USA  
TEL: (909) 372-1220 FAX: (909) 372-1233  
www.gibsonperformance.com

REPORTS/T.A

## 最高のサウンドを奏でるギブソン

今月紹介するギブソンは、90年代に起業した新興勢力だ。だがSEMAをはじめとする各アワードを受賞しており、同社に対する高い評価はすでに定着している。このファクターとなっているのが、独創性と家族経営による信頼性の確保にあるという。特に“スーパー・フロー・デザイン”という消音材を使用しないサイレンサーは、同社の特徴を形作っている。

ギブソンのメインパーツは、キャタリティック・コンバーターの後ろのフランジから後方のエキゾーストパイプ、及びマフラー一式をカスタムキットにした通称キャタバック・システム。エキゾーストリアパイプ、そしてマフラー本体も100%ギブソン・オリジナルとなる。自社生産システムだ。フローエリアの均等化を計るため、以前から何度か紹介している「曲げ」の方法であるマンドレル・ベントを使用するのはもちろん、使用材料も極力良いものを選びクオリティを追求しているギブソンだが、最も大きな特徴はマフラーにある。これは、ロー・リストラクション、という非常に抵抗が少なくなる新設計技術を採用したタイコで、真ん中がまん丸で太めのもの。このタイコ部分には、マグナフローなどのようにガラスウールなどの消音材は使われていない。では消音材など入っていない空洞のパイプでどうやって消音するのか？ 中央部に位置するインレットパイプにルーバーのような消音穴が開いており、こ

若者、特に音楽に関心のある者は、ギブソン、というだけで「ありや音がイイ」と言う。名前を聞くだけで自動的にサウンドがよい、というイメージに置かれているのである。もちろん、これはギターの話ではあるが、ことエキゾーストやマフラーの話になっても、これは同様のことが言え、ギブソンは音がイイと言われるのである。

今年の1月号にマグナフロー・エキゾーストという会社を紹介したが、このマグナフローという会社のライバルに位置しているのがギブソン・パフォーマンス・エキゾーストだ。このふたつの会社の最大の相違は、経営のやり方にある。マグナフローが巨大企業のひとつのディビジョンであるのに対し、ギブソンは完全なファミリー企業、つまり家族経営になるわけだが、その方が商品に対しての責任や信用などが強くなり、結果的に有利だと主張する。家族経営とはいえ、ギブソンも順調に業績を伸ばしており、新社屋を完成させるなど、かなりの規模と人気を得ているのである。



セールス・マネージャーのMr. DANNY MONIZ.



Mr. SHAWN GIBSON. 二代目になる人物だ。

オフィスの中は、こんな感じ。デスクスペースといい、収納の容量といい、美しいかぎり、クリーンなもの性格を物語っている。社員たちとの写真がこんな風に飾られていて、いい関係がよい製品を作り出しているのが分かる。壁に飾られているマガジンの切り抜きは、外にパークされていたシルバラードのもの。雑誌はトラックだ。かと思えばトラック・ビルダーのような堅い雑誌にもちゃんと紹介されていたりする。



デモカーも兼ねて作った、有名なギブソン・シルバラード。各イベントに出ていたりするから、知っている人も多いのではないだろうか。



の穴とタイコボディのデザインで抵抗を極めて低くし、消音するという技術を開発したのだ。これはスーパー・フロー・デザインと呼ばれる。ストロークのマフラーのリストリダクション、つまり抵抗が34%であるのに対し、ギブソンのものはたったの5%。無論、抵抗がまったくないというのがベストというわけではなく、必要かつ充分な量のバックプレッシャー、つまり背圧がなければパワーアップは望めない。ギブソンはこのあたりも抜かりはなく、パワー&トルクアップを果たしている。

ここでパワー・レンジのデザインというのを、少し考えてみよう。一般的なエキゾースト・システムの場合、高いものだと5000~6000回転にパワー・レンジを設定するが、ギブソンの場合はせいぜい2000~4000回転の低中速域に設定している。すなわち日常ほとんど使用しないパワー・レンジを捨て、通常使用するローからミッド・レンジですべてのパワーが発揮できるように設計・製作されている。これは特にSUVやトラックには有利。低速トルクのたつぷりしたビッグブロック・サウンドになるのは、構造上の理由から、先のスーパー・フロー・デザインがフロー・チューニング・チャンバー現象を引き起こし、排気効率を上昇させると同時に消音材がないが故にタイコの中で響いた低音が強調される、というわけだ。

パワーアップもうれしいし音が良いのもうなづける。しかし近所迷惑などを考えて、あまりにうるさすぎるシステムは困る、という人にもギブソンはオクスメダスポーツ・トラックやSUVでは、ストロークと比較して5~8デシベル・アップ程度に抑えられているから問題なし。だがシステムは全部で5タイプに分かれており、タイプによって消音効果は違ってくる。以下に、それを紹介しておこう。ここでのポイントは、フロント側からマフラーまではすべて同じものになる。しかしリアの出口がシングルとデュアル、さらにはロングテール・ハイブ・バージョンやショート・ハイブ・バージョンに



高層でかいパイプ・カッター。ここで切り取られたストレートのパイプが、曲げられたり溶接されたりしながら、様々に形を変えていく。



フランジやガスケットの型具本。



インストール・センター。毎回思うのだが、パーツメーカーがパーツの取り付けまでやるというのが日本から見れば不思議、というが凄い。



タイコには、写真の3タイプがある。左がラウンド・センター、中央はラウンド・デュアル、そして右はラウンドオフセット。



これが本文にも出てきた、ギブソン・オリジナルのスーパー・フロー・デザイン。消費材を使うことなく、このフィンのデザインだけで消費する。



マンドレルベントでパイプが自在に曲げられていく。ストレートのパイプがいろんな形を持ったパーツへと進化する。



90年代初頭、ギブソンは誕生した。スポーツ・トラックや4x4ブームに乗って有名なエキゾースト・カンパニーに躍り出た。その後も順調に活躍を続け、2001年にはSEMAのベスト・ニュー・アクセサリ・アワードに輝いたのである。インヘリティブ・デザイン部門の勝利と前後してキー・サブライヤーという賞まで受けるに至り、押しも押されぬ企業に認められたのである。この評価は、もちろん製品の品質が認められたといっ

ていい。より変わってくる。

●スウェプト・サイドのSPORT SIDE  
ヘッドパイプ・マフラー、テールパイプ、エキジット・パイプで構成される最もポピュラーなシステムで、音は気にならない程度のうるささ。1本入りの1本出し。ストックの位置にテールパイプは出てくる。T304ステンレス・ポリッシュのチップが付く。

●スーパー・トラック(SUPER TRUCK)  
ヘッドパイプ・マフラー、2テールパイプで構成され、ややうるさいサウンド。角形のマフラー・ティップがボディサイドから突き出す。ワイルドなシステム。レーストラックサウンドが味わえる。

●デュアル・スポーツ(DUAL SPORTS)  
ヘッドパイプ・マフラー、2ロング・テールパイプで構成され、少しうるさいサウンド。基本的にはスウェプト・サイドをリア2本出しにしたもの。

●スプリット・リア(SPLIT REAR)  
ヘッドパイプ・マフラー、2ロング・テールパイプで構成。ややうるさい。デュアル・スポーツの2本出しシステムを、昔ながらのV8カー風リア左右2本出しにしたもの。迫力あるスタイルになるが、トウインクには適さないシステム。

●デュアル・エキストリーム・スプリット・サイド(DUAL EXTREME SPLIT SIDE)  
ヘッドパイプ・マフラー、2ロング・テールパイプで構成。少しうるさい。デュアル・スポーツの後部2本出しを、リアタイヤ直後から斜め横に出す。つまりアメリカン・トラックではストックの位置にする。



この炉の中にモノを入れてゴリゴリ回転させるとあら不思議、バリや溶接のゴミが取れてしまう。



これがギブソンのヘダース。火花を散らしているのは、フランジをベルト式のグラインダーにかけて完全なフィットを得るための加工をしている。ヘダースはいかに長く専長に作るかがポイント。



膨大なストック棚を前に、完成したパーツを梱包するセクションとシッピング・セクション。年に3000セット以上が出荷される。

# PRESENT



Tシャツ1名

ギブソンからプレゼントがあります。ご希望の方は①住所②氏名③取り上げてほしいパーツメーカー名④コーナーの感想、を記入し、ハガキまたは封書にて下記の宛先までお申し込み下さい。  
〒162-8664 東京都新宿区早稲田新巻町571 DIABOX2-6F 株式会社マガジンボックス 月刊A-cars編集部 IPプレゼント係

**GIBSON**  
PERFORMANCE EXHAUST

ステッカー20名



カタログ5名

すべてのキットは素人でもボルトオンでできてしまうほど簡単に、そして良心的にできている。インスタレーションにかける時間も1時間だという。それがいちばん手間取るのが、ストックのエキゾーストを取り外すことだという。  
システムを完全にキット化することで、誰にでも取り付けられる。そもそも安めに定価を設定しているの、備前のパフォーマンス・エキゾーストを手に入れることが身近なものになった。70%のビジネスがこれらキャタバック・システムとなるが、ギブソンはヘダースもやっている。ポリシーは一貫してショーティという同社のタコ足は、すべてOEMのフランジに合わせて作られており、ヘッドパイプにボルトオンできるのだ。ヘダースを付けることでキャタバック・システムが最高の音にチューニングされることは、いうまでもない。